



「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内

TEL :043-227-8557



第1回 連続セミナー

演題：「学校から就労、地域へ

～TEACCHにおける青年期への移行支援の現場から～」

講師：岡東 歩美 氏

(千葉県こころセンター／地域保健課・精神科医)

今回は、千葉県こころセンター、地域保健課精神科医師の岡東歩美氏を講師にお迎えしました。岡東氏は2019年9月～2020年6月までTEACCHの発祥地、アメリカのノースカロライナ州に留学されていました。今回はその御経験について御話をいただきました。TEACCHとは何かを改めて学び、最新の傾向も知ることができ、とても実りのあるセミナーとなりました。

TEACCH とは

オリジナルは、Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children であるが、現在では、TEACHING (教育を行う) EXPANDING (支援を拡大する) APPRECIATING (正しく認識する) COLLABORATING AND (支援を協力する) COOPERATING (共同する) HOLISTIC (包括的支援を行う) で、TEACCH となる。

TEACCH のコアバリュー

- ①Commitment (他者の生活に良い変化をもたらすため責任をもって関わる)
 - ②Collaboration (協働する文化を創り出す)
 - ③Excellence (卓越した技術・方法を素早く届ける)
 - ④Strengths (強みを生かす)
 - ⑤Continuous Lifelong Learning (生涯学び続ける)
 - ⑥Inclusion, Diversity, and Equity (共生、多様性、公正さ) がある。
- 時代に合わせて変化できることが TEACCH の強みである。

ASD の人の認知特性

①視覚的に考える ②明示的学習 (暗黙の了解が苦手) ③独特の注意の向け方 ④実行機能の問題 (物事の段取り、順序立て) ⑤感覚刺激の偏り (敏感／鈍感) ⑥心の理論の弱さ がある。その中でも、心の理論の弱さに対して、新しい事について会話する練習があり、楽しいことを共有するため、動画を見ているときにスクリーンショットして、好きな部分について話をする練習をしていた。
⇒認知特性を理解した支援をすることで問題行動が減る。

TEACCH Autism Program の特徴

- ASD をとりまく世の中の潮流、診断や研究に合わせて進化している。
- ・高機能 ASD の方で、大企業ですごくお金を稼ぐような力がある人であっても、対話が苦手で、報告、連絡、相談がうまくできずに、ジョブコーチが間に入ることがある。
 - ・コロナ禍以降は「自ら」診断を希望してくる人が増加している。

アメリカの就労支援

TEACCH 就労支援センターがノースカロライナには2か所ある。それぞれ約 30 名のジョブコーチが所属し、岡東氏が視察したセンターには年間 500 名の方が利用している。TEACCH 援助付き雇用サービスというサービスがあり、①就労前には、本人の能力評価や仕事探しの支援 ②就労後には、仕事を続けるための支援 のサービスがある。能力評価では、TTAP が用いられる。就労後の支援では、個別就労支援、シェアサポート（ジョブコーチが各人に対して間欠的にサポート）、モバイルクルー（1グループ2～3人で、庭仕事、個人宅の清掃などを行う。）、1対1モデル（重度の行動障害がある ASD の方が対象で、1対1で仕事をサポートする）
⇒それぞれの職場で、構造化がされている。

※アメリカ文化で、同僚と少しでも話すことがマナーとなっている。しかし、タブーになる話題（宗教のことや性的なこと）に触れてしまうことがある。そうした場面で適切な会話の練習を就労支援の中で行う。

青年期特有の構造化

◎生物学的問題（身体的成長と成熟、運動能力、筋力の向上、感覚の問題変化）
⇒ひげそり、生理用品の交換など

◎心理的問題（自立性と独立性への欲求、新しい経験への関心、プライバシー）
⇒スケジュールの活用、プライベートとは何か明示する。

◎感情的問題（イライラ、不安、ホルモンバランス）
⇒緊張をほぐす活動、感情コントロールのための「ルーティン」

◎認知的問題
⇒妥協できないときの対処法、ソーシャルストーリーの活用

◎社会的問題（友達がほしい、帰属意識、他者への関心）
⇒社会的機会、クラブ活動、社会的ルールについて視覚的手がかり

TEACCH の新しいプロジェクト

- T - STEP プログラム
- LiNC - IT
- TRAC プログラム
- Gorilla group
- プロジェクト ECHO

新しいプロジェクトとしてご紹介いただきました。
気になった方は、調べてみてください。

令和6年度 TEACCH プログラム研究会第3回連続セミナーのお知らせ

日 時：令和6年9月29日（日）14：00～16：30（13：30受付）

会 場：千葉県教育会館303会議室（千葉市中央区中央4-13-10）

発表者及び演題：佐々木敏幸氏（明星大学教育学部教育学科 助教）

「重度知的障害のある ASD の子どもへの移行における教育的支援（仮題）」

※オンデマンド動画配信 配信期間：令和6年10月4日（金）～10月20日（日）

【編集後記】

今回「TEACCHとは何か?」、「アメリカでの最新のTEACCHのこと」などについてお話を聞くことができ、日本でも TEACCH の理解や考え方がもっと広がっていくと良いなと感じました。ノースカロライナでは、TEACCH 就労センターがあり、就労支援のベースとなる考えは TEACCH となっているのがすごいなと感じました。学校現場では、実習先や進路先で構造化できないことがあり、それを知る高等部の教員は支援がなくてできるように指導をしようと考えている人もいます。ノースカロライナのように構造化することが当たり前という社会ができれば良いなと思いました。（三国）